

卒業式 式辞

本格的な春の訪れが、そこかしこで感じられる季節となつてまいりました。本日、ここに令和三年度卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

本学での学びを終え、本日ここに、晴れて卒業を迎えられた皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、お祝い申し上げます。

ただいま、大学院三人、大学二七七人、短期大学部一五七人、計四三七人の卒業生に「卒業証書・学位記」を授与いたしました。この「卒業証書・学位記」は、皆さんがそれぞれの学部・学科で勉学に励み、兵庫大学、兵庫大学短期大学部での学びを終えられた証です。

そして本日は、多くの人に支えられ、見守られて、学生生活を送り、これから、社会人としての歩みが始まるという節目の日でもあります。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、現在もその影響が続いています。大学構内への入構制限や、オンラインによる授業、課外活動の制限・自粛など、多くの変化がありました。環境の変化に戸惑い・不安を抱えることもあったと思います。大きな変化に遭いながらも、その中で皆さんが取られた行動や感じられた思いは、必ずやこれからの人生に活けると信じています。

現代の社会では、今回のような感染症のみならず、天災や紛争、経済や環境に関わる問題を含め、これまで想定してこなかったような未曾有の出来事に対し、皆で知恵を出し合って、世界を良い方向へと導いていくことが求められています。

二〇一五年九月に国連サミットで採択された SDGs (Sustainable Development Goals) では、二〇三〇年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標が掲げられており、その中に次のような言葉があります。それは、「leave no one behind (誰一人取り残さない)」です。

自分だけが良ければよいという考え方は、他者を脅かし不幸にするだけでなく、巡り巡って自分自身を危うくすることに繋がっていきます。他者をおもんばかり、社会に目を向け行動することは、結果的には自分自身に幸せをもたらすのです。私たちはそうした社会を目指していかなければなりません。その時、その瞬間に、どのようなことを感じるのか、自身の感性を大切に、そして他者に対する思いやりを常に持ち続ける皆さんであってほしいと願っています。

人は一人では生きていくことはできません。

これから社会人としての歩みを進めていかれる中でも、皆さんは、たくさんの人々と出会い、多くのことを学び、誰かと共に何かを生み出していく。それがささやかなものであったとしても、社会を良き方向へいざなう一助であってほしいと思います。そして、人として共感する心、人への慈しみの心、思いやりに溢れた心を大切に、人々と喜びを分かち合う、豊かな人生を歩んでいただきたい、そう願っています。

最後に、卒業していく皆さんに、もう一つお伝えしておきたいことがあります。これから皆さんが歩む長い人生は、無限の可能性を秘めています。ただ、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁にぶつかることもあるでしょう。

そのような時には、本学での学びや経験を基礎としながら、さらに学び、柔軟な思考を巡らせ、乗り越えていただきたいと思います。

日々の生活の中から、さまざまなことを見て、感じて聴き入って考える、その姿勢が、皆さんの個性、智慧となり、問題を解決し、皆さんの成長に繋がっていくはずです。

それでもなお、壁を乗り越えれそうにない時は、私たちを訪ねてください。もし皆さんが、これからの人生の中で孤独に苛まれるようなことがあったとしても、決して一人ではないことを思い出してください。私たちは常にあなた達と共にあります。

それでは、卒業生の皆さんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、令和三年度卒業式の式辞とします。

令和四年三月二十三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真